

# イタリア語における文法文型と文要素配列

## －動詞の意味構造と結合価－

上野 貴史（大阪女子短期大学）

### 1. はじめに

本城(2005/ 2009)では、動詞の繫辞性・左方結合価性・右方結合価性という三つの示唆的特徴に基づく文法文型(grammatical sentence pattern)として、(1)のような分類方法が示されている。

#### (1) a. 繫辞性がない：動詞述語文

繫辞性がある：繫辞文

#### b. 左方結合価がない：単肢文

左方結合価がある：両肢文

#### c. 右方結合価がない：非項結合価述語文

右方結合価がある：項結合価述語文

この文法文型と意味公式に基づく意味文型(semantic sentence pattern)により、本城(2005/ 2009)では、チェコ語と日本語の複合文型(complex sentence pattern)について子細な機能分析が行われている。

イタリア語の結合価に基づく文法文型に関しては、Salvi(1991a)が左方結合価の出現の有無を基準として、それぞれの動詞が持つ右方結合価による分類を行っている。左方結合価を持たない動詞が非対格自動詞となるのに対して、右方結合価を持つ動詞が他動詞と非能格自動詞となり、(2)のような文法文型が成立する<sup>\*1</sup>。

#### (2) a. 非対格自動詞：[V]/ [V PP]/ [V NP]/ [V C]/ [V NP PP]/ [V NP C]/ [V C PP]/

[V PP PP]

#### b. 他動詞・非能格自動詞：[NP V]/ [NP V PP]/ [NP V NP]/ [NP V C]/

---

\*1 文型中の要素の略号は、本稿で用いているものに置き換えている。

他動詞・非能格自動詞の文型は、非対格自動詞の文型に左方結合価である主語名詞句を加えたものとなっており、非対格自動詞と他動詞・非能格自動詞でパラレルな文型関係が成立している。しかし、Salvi(1991a)の文型分類は、左方結合価性と右方結合価性という結合価性だけの示唆的特徴によるものであり、意味文型を考える上でも不可欠なものと考えられる繫辞性という特徴が除外されている。そこで本稿では、繫辞性という示唆的特徴を加えて、イタリア語の文法文型の分類を新たに試みる。非対格自動詞が持つ意味構造が繫辞性と関連しており、補文などに見られる統語上の諸現象に影響を与えていることを明らかにしていく。このように、動詞の繫辞性・左方結合価性・右方結合価性という示唆的特徴と、動詞が持つ意味構造により確立される文法文型から、表層で出現する文要素配列を明確にすることが本稿の目的となる。

## 2. 動詞の意味構造と結合価

他動詞と非対格自動詞は、〈Theme〉(対象物)となる意味役割を持つ名詞句を内項として保持する。この〈Theme〉が対格として具現するものが他動詞であり、主格として現れるものが非対格自動詞となる。そして、内項を持たず、外項に〈Agent〉(動作主)の意味役割を示す名詞句が出現するのが非能格自動詞となる。非対格自動詞と非能格自動詞の文は、表層では同じような形式で現れる。

(3) Giovanni *arriva*. 「ジョヴァンニが到着する」

(4) Giovanni *telefona*. 「ジョヴァンニが電話する」

(3)の非対格自動詞 *arrivare(arriva)* は、内項にある非対格名詞句 *Giovanni* が主格となって派生しているのに対して、(4)の非能格自動詞 *telefonare(telefona)* は、外項にある名詞句 *Giovanni* に主格が与えられて派生している。非対格自動詞と非能格自動詞は、異なる統語特性を示すことから異なる文法文型を持つと考えられる<sup>\*1</sup>。

非対格自動詞・非能格自動詞・他動詞は、意味構造という点においても異なる特性を示

\*1 イタリア語の非対格自動詞の統語特性としては、複合時制における *essere* 助動詞選択、*ne* 接語化、形容詞的完了分詞、過去分詞の絶対構造などがある。

す。(5)は、影山・由本(1997)で取り上げられているアスペクトを軸とした語彙概念構造の基本形である。

- (5) a. 状態動詞 : [[ ], BE AT-[ ]<sub>z</sub>]  
b. 到達動詞 : [BECOME [[ ], BE AT-[ ]<sub>z</sub>]]  
c. 活動動詞 : [[ ]<sub>x</sub> ACT ON-[ ],]  
d. 達成動詞 : [[ ]<sub>x</sub> ACT ON-[ ],] CAUSE [BECOME [[ ], BE AT-[ ]<sub>z</sub>]]

非対格自動詞は、「状態動詞」と「到達動詞」に該当し、内項にある[ ], が動詞の主語 (subject) を示す一方で、「活動動詞」の語彙概念構造となる非能格自動詞は、内項[ ], を保有せず、外項[ ]<sub>x</sub>が主語となる<sup>\*</sup>。また、「活動動詞」と「達成動詞」となる他動詞は、外項の主語である[ ]<sub>x</sub>と内項である[ ], を持つことになる。非対格自動詞・非能格自動詞・他動詞という動詞ごとの語彙概念構造を示すと(6)のようになる。

- (6) a. 非対格自動詞 : [[ ], BE AT-[ ]<sub>z</sub>]/[BECOME [[ ], BE AT-[ ]<sub>z</sub>]]  
b. 非能格自動詞 : [[ ]<sub>x</sub> ACT]  
c. 他動詞 : [[ ]<sub>x</sub> ACT ON-[ ],]

[[ ]<sub>x</sub> ACT ON-[ ],] CAUSE [BECOME [[ ], BE AT-[ ]<sub>z</sub>]]

(6a)の非対格自動詞における[ ]<sub>z</sub>は、動詞の述部(predicate)を示す部分であるが、非対格自動詞の中には、[ ]<sub>z</sub>が定項(constant)として特定の意味概念を初めから動詞により指定されているものがある。

- (7) Il bel tempo *continua*. 「良い天気が続く」

(7)の非対格自動詞の語彙概念構造は、(8)のように[ ]<sub>z</sub>に動詞が指定した定項[CONTINUATO] (継続)があるものとして記述することができると考えられる。

- (8) [[il bel tempo], BE AT-[CONTINUATO]<sub>z</sub>]

このように述部である[ ], を定項として保持している非対格自動詞は、単肢述語文となる。一方、非対格自動詞の中には、述部である[ ]<sub>z</sub>を変項(variable)として自由にとることができるものがある。

- (9) Il piatto è bianco. 「その皿は白い」

---

\*1 [ ]<sub>x</sub>が外項、[ ], が内項ということについては、影山(1996)などを参照のこと。

(9)の語彙概念構造は、(10)のように[ ],に自由な述部を持つ形として示すことができる。

(10) [[il piatto], BE AT-[bianco],]

定動詞 *essere* (è) は、主語となる[ ],とその述部である[ ],を連結させる役割をしており、主語[ ],と述部[ ],で小節 (small clause) 構造を構成することになる。このような文が単肢繫辞文となる。この繫辞性という示唆の特徴を加えて、動詞が取る結合価性による文における語彙概念構造を示すと(11)のようになる。

(11) a. 単肢述語文 : [[ ], BE AT-[constant],]/ [BECOME [[ ], BE AT-[constant],],]

b. 両肢非項結合価述語文 : [[ ], ACT]

c. 両肢項結合価述語文 : [[ ], ACT ON-[ ],]

[[ ], ACT ON-[ ],] CAUSE [BECOME [[ ], BE AT-[ ],],]

d. 単肢繫辞文 : [[ ], BE AT-[ ],]/ [BECOME [[ ], BE AT-[ ],],]

### 3. イタリア語の文法文型と文要素配列

イタリア語は、形態類型論的に屈折タイプに属するが、名詞句は主要部としての名詞が数・性の素性を付与され文法機能が与えられる。この主要部である名詞が持つ素性の文法的一致により名詞句が形成され、その句内の要素配列は一部可動位置の修飾要素を除き、要素固定語順となる。また、文においては、主要部である動詞が法・時制・主語の人称と数の素性により文法機能を付与され、この動詞を中心とした結合価により形成される文構造における文要素配列は、英語などの固定語順言語と比較して自由語順により特徴付けられる。無標である文要素配列は、「主語＋動詞＋補部」となるが、文頭にある主語人称代名詞は情報的にテーマである場合、明示されないのが普通である。また、代名詞として現れる対格補語や与格補語は、義務的に動詞に前置される。

イタリア語の文法文型<sup>\*1</sup>を示すに当たり、以下の表記を用いることにする。

V : 定動詞/ V<sub>3</sub> : 定動詞三人称形態/ V<sub>3s</sub> : 定動詞三人称単数形態/ VP : 動詞句/ NP : 名詞句  
/ NP<sub>UNACC</sub> : 非対格名詞句/ NP<sub>NOM</sub> : 主格名詞句/ NP<sub>ACC</sub> : 対格名詞句/ AP : 形容詞句/ ADV :  
副詞/ ADV<sub>LOC</sub> : 場所副詞/ ADV<sub>TIME</sub> : 時間副詞/ ADV<sub>MANNER</sub> : 様態副詞/ P : 前置詞/ PP : 前置

\*1 文型分類に当たり、比較的義務的な ADJ (付加部) も結合価として扱うことにする。

詞句/ PP<sub>DAT</sub> : 与格前置詞句/ PP<sub>POS</sub> : 所有の与格前置詞句/ PP<sub>LOC</sub> : 場所前置詞句/ PP<sub>MANNER</sub> : 様態前置詞句/ C : 補文/ CHE : 定形節/ CHE<sub>IND</sub> : 直説法定形節/ CHE<sub>CON</sub> : 接続法定形節/ INF : 不定詞/ INF<sub>ViUnacc</sub> : 非対格自動詞不定詞/ INF<sub>ViUnerg</sub> : 非能格自動詞不定詞/ INF<sub>Vi</sub> : 他動詞不定詞/ INF<sub>SUB</sub> : 補文内主語不定詞/ ADJ : 付加部/ CL : 接語/ Art : 冠詞

### 3.1 述語文

#### 3.1.1 単肢文 (文型 A)

単肢文は、定動詞の左方に結合価を持たない文である。イタリア語においては、左方結合価を持たない非対格自動詞が単肢文を形成する。単肢述語文に現れる非対格自動詞の語彙概念構造は、動詞の述部である [ ]<sub>z</sub> が定項で占められる ((11a))。

##### 3.1.1.1 非項結合価 (文型 A0)

単肢非項結合価述語文に出現する動詞は、「気象に関する出来事」を意味する非人称動詞であり、語彙概念構造は(12)のように、[ ]<sub>y</sub> がゼロ (φ)、[ ]<sub>z</sub> が動詞により指定された特定の意味概念となる定項を持つ。

(12) [[φ]<sub>y</sub>, BE AT-[constant]<sub>z</sub>]/ [BECOME [[φ]<sub>y</sub>, BE AT-[constant]<sub>z</sub>]]

##### 3.1.1.1.1 文型 A01: [V]

文型 A01a: [V<sub>35</sub>] : *piovere* 「雨が降る」/ *nevicare* 「雪が降る」/ *tuonare* 「雷が鳴る」

内項である非対格名詞句が φ であるため、定動詞は三人称単数形態として出現する。

文要素配列① : V<sub>35</sub>

*Piove forte.* 「ひどく雨が降る」/ *Nevica tanto.* 「たくさん雪が降る」/ *Tuona tutta la notte.*

「一晩中雷が鳴る」

##### 3.1.1.2 1項結合価 (文型 A1)

##### 3.1.1.2.1 文型 A11: [V NP]

文型 A11a: [V NP<sub>UNACC</sub>] : *cominciare* 「始まる」/ *continuare*<sup>\*1</sup> 「続く」/ *nascere* 「生まれる」/

\*1 非対格自動詞の *continuare* は、内項に [-animate] (無生) の非対格名詞しか持たない。外項に [+animate] (有生) の名詞句が出現する場合は、非能格自動詞となる。

*morire*「死ぬ」/ *esserci*「存在する」/ *esistere*「存在する」/ *affondare*「沈む」/ *piovare*<sup>\*1</sup>

「雨のように降る」/ *andare avanti*「前進する」/ *venire giù*<sup>\*2</sup>「落ちる」

単肢文で右方結合価としての NP は非対格名詞であり、定動詞は主語となるこの非対格名詞の人称・数に一致する。主語が動詞に前置される語順が統語的に無標 (①) となるが、主語が新情報となる場合は動詞に後置される (②) <sup>3</sup>。

文要素配列①: NP<sub>NOM</sub> - V

*La nave affonda lentamente.* 「船がゆっくりと沈む」/ *I fantasmi non esistono.* 「幽霊は存在しない」/ *Non si può andare avanti così.* 「こんな風にやってはいけない」

文要素配列②: V - NP<sub>NOM</sub>

*È nata una bella bambina.* 「かわいい女の子が生まれた」/ *Sono piovuti cenieri.* 「灰が雨のように降ってきた」/ *È venuto giù il cielo.* 「空が落ちた」

### 3.1.1.2.2 文型 A12: [V C]

文型 A12a: [V<sub>3s</sub> C[(P)-INF]]

C[INF]: *bisognare*「必要がある」/ *occorrere*「必要がある」/ *convenire*「必要がある」/ *bastare*「十分である」/ *importare*「重要である」

C[a-INF]: *cominciare*「始める」/ *iniziare*「始める」/ *incominciare*「始める」

C[di-INF]: *finire*「終わる」/ *trattarsi*「重要だ」

文型 A12b: [V<sub>3s</sub> C[CHE]]

C[CHE<sub>IND</sub>]: *finire*「結局～になる」

C[CHE<sub>INDICON</sub>]: *dirsi*「言われている」/ *vedersi*「明らかだ」

\*1 非項結合価述語文で用いられる文型 A01a の「気象に関する出来事」を意味する動詞の比喩的用法である。

\*2 *andare avanti/ venire giù* などは、[V-ADV<sub>LOC</sub>] (動詞+場所副詞句) で一つの句動詞として扱う。

\*3 *succedere/ nascere/ morire/ cominciare/ finire* などの「出来事」動詞に時間を表す付加部がある場合、"NP<sub>NOM</sub> - V - ADJ"または"ADJ - V - NP<sub>NOM</sub>"という文要素配列となるが、"ADJ - NP<sub>NOM</sub> - V"は、V に強勢がない場合不適格となる。Questo fatto è successo l'anno scorso./ L'anno scorso è successo questo fatto./ \*L'anno scorso questo fatto è successo. 「このことが昨年起こった」(Benicà et al. 1991,123)

C[*CHE<sub>CON</sub>*] : *bisognare* 「必要がある」 / *occorrere* 「必要がある」 / *convenire* 「必要がある」 /  
*bastare* 「十分である」 / *importare* 「重要である」 / *accadere* 「起こる」 / *avvenire*  
「起こる」 / *capitare* 「起こる」 / *succedere* 「起こる」

文型 A12a/b は、意味構造における [ ]<sub>v</sub> が補文となるため<sup>\*1</sup>、定動詞は三人称単数形態として出現する。

文要素配列① : V<sub>3S</sub> - C[(P)-INF]/[*CHE*]

*Comincia a piovere.* 「雨が降り始める」 / *Si tratta di decidere subito.* 「すぐに決定することが重要である」 / *Finirà che dovrò andarci io.* 「結局私はそこに行かなければならなくなるだろう」 / *Si dice che l'amore è cieco.* 「愛は盲目であると言われる」

C[INF] と C[*di*-INF] の不定形補文は、定形補文との交替形を持つものがある。この場合の定形補文には接続法が用いられる。

文型 A12a: [V<sub>3S</sub> C[INF]] ⇔ 文型 A12b: [V<sub>3S</sub> C[*CHE<sub>CON</sub>*]]

*Bisogna partire.* ⇔ *Bisogna che si parta.* 「出発する必要がある」

文型 A12a: [V<sub>3S</sub> C[*di*-INF]] ⇔ 文型 A12b: [V<sub>3S</sub> C[*CHE<sub>CON</sub>*]]

A volte *accade* di sbagliare. ⇔ A volte *accade* che si sbaglia. 「時々間違えることがある」

### 3.1.1.3 2項結合価 (文型 A2)

#### 3.1.1.3.1 文型 A21: [V NP PP/ADJ]

文型 A21a: [V NP<sub>UNACC</sub> PP<sub>DAT</sub>] : *interessare* 「重要である」 / *importare* 「重要である」 / *bastare*  
「十分である」 / *manicare* 「不足している」 / *piacere* 「気に入る」 / *girare* 「気が向く」 / *andare* 「～に合う」

主語が動詞に前置され、与格補語が動詞に後置される語順が統語的に無標 (①) となるが、与格補語が前置される語順が一般的に用いられる (②)<sup>\*2</sup>。

文要素配列① : NP<sub>NOM</sub> - V - PP<sub>DAT</sub>

\*1 補文は、[-animate]/[-plural] (単数) という素性を持つと考えられる。

\*2 口語では、与格補語の後に与格代名詞を繰り返す文もよく使われる。A Giorgio gli piacciono gli spaghetti. 「ジョルジョはスパゲッティが好きだ」 (Benicà et al. 1991,134)

Questi problemi non *interessano* a nessuno. 「これらの問題は誰にも重要ではない」 /

Questi guanti non ti *vanno*. 「この手袋は君に合わない」

文要素配列② : PP<sub>DAT</sub> - V - NP<sub>NOM</sub>

Mi *basta* un po' di minestra. 「私は少しのミネストラで十分だ」 / A Paolo *piace* questo libro. 「パオロはこの本が好きだ」

文型 A21b: [V NP<sub>UNACC</sub> PP[P-NP]]

PP[a-NP] : *spettare* 「帰属する」 / *toccare* 「当たる」 / *servire* 「役立つ」 / *valere* 「役立つ」 / *seguire*

「後に来る」 / *intervenire* 「出席する」 / *volare* 「思いをはせる」

PP[da-NP] : *cominciare* 「始まる」 / *procedere* 「生じる」 / *risultare* 「生じる」 / *guarire* 「正す」 / *dependere* 「次第である」 / *arrabbiare* 「気が狂いそうになる」

PP[di-NP] : *scappare* 「逃げる」 / *morire* 「死ぬ」 / *vivere* 「生計を立てる」 / *stupire* 「驚く」 / *pentirsi* 「後悔する」 / *vergonarsi* 「恥じる」

PP[in-NP] : *cadere* 「陥る」 / *intervenire* 「介入する」 / *risolversi* 「決着する」 / *provarsi* 「試す」 / *perdersi* 「熱中する」

PP[con-NP] : *cominciare* 「始まる」

PP[su-NP] : *intervenire* 「手術をする」 / *ricredersi* 「考えを変える」

文要素配列① : NP<sub>NOM</sub> - V - PP[P-NP]

*Sono caduto* in disgrazia. 「私は災難に見舞われた」 / *Mi sono ricreduto* sul tuo conto. 「私は君のことを考え直した」

文要素配列② : PP[P-NP] - V - NP<sub>NOM</sub>

Ai genitori *spetta* un importante ruolo. 「両親には重要な役割がある」 / Dall'inchiesta *risulteranno* gli eventuali ammanchi. 「調査によると予想外の赤字が生じるだろう」

文型 A21c: [V NP<sub>UNACC</sub> ADJ[PP<sub>LOC</sub>]] : *andare* (a/in) 「行く」 / *venire* (a/in) 「来る」 / *partire* (per)

「出発する」 / *arrivare* (a/in) 「到着する」 / *passare* (da/per) 「通る」 / *cadere* (da)

「落ちる」 / *arrampicarsi* (su) 「よじ登る」

主語が前置される語順が無標 (①) に対して、非対格名詞句が[-definite] (不定) の素性を持つ場合に動詞に後置されることがある (②)。また非対格名詞句が無冠詞である場合は、動詞に後置される語順とならなければならない。



文要素配列① : NP<sub>NOM</sub> - V - ADJ[PP<sub>LOC</sub>]

Maria è partita per Londra. 「マリアはロンドンに向けてに出発した」

文要素配列② : V - NP<sub>NOM</sub> - ADJ[PP<sub>LOC</sub>]

È arrivata una persona a casa. 「ある人が家に到着した」 / Arrivano bambini a scuola. 「子供たちは学校に着く」

文要素配列③ : V - ADJ[PP<sub>LOC</sub>] - NP<sub>NOM</sub>

È caduta dal cielo una stella. 「星が空から落ちた」

文要素配列④<sup>\*1</sup> : ADJ[PP<sub>LOC</sub>] - V - NP<sub>NOM</sub>

In ufficio è arrivata una persona. 「事務所にある人が到着した」

文型 A21d: [V NP<sub>UNACC</sub> ADJ[P-INF]] :

ADJ[a-INF] : andare 「～しようとする」 / venire 「～しに来る」 / scoppiare 「突然～する」

ADJ[da-Art-INF] : rifuggire 「遠ざかる」

文要素配列① : NP<sub>NOM</sub> - V - ADJ[P-INF]

Abbiamo andati a vedere un film. 「私たちは映画を見に行った」

文要素配列②<sup>\*2</sup> : V - NP<sub>NOM</sub> - ADJ[P-INF]

Domani viene Giovanni a prendere il libro. 「明日本を取りにジョヴァンニが来る」

(Salvi 1991a,52)

文型 A21e: [V NP<sub>UNACC</sub> ADJ[PP<sub>LOC</sub>/ADV<sub>LOC</sub>]]

ADJ[PP<sub>LOC</sub>/ADV<sub>LOC</sub>] : esserci 「～がある」

---

\*1 PP<sub>LOC</sub>[per-NP]以外の前置詞句における左方転位は、随意的な繰り返し接語を伴って可能となる。A casa, (ci) andrò domani. 「家には私は明日行くつもりだ」 (Benicà et al. 1991,176)

PP<sub>LOC</sub>[per-NP]に関しては、partireを除いて義務的な繰り返し接語を伴って可能である。Per Pisa, non ci passo mai. 「ピサを通っては私は決して行かない」 (Benicà et al. 1991,178) / \*Per Pisa, ci parto domani. 「ピサへ私は明日出発する」 (Benicà et al. 1991,178)

\*2 ADJの後に主語を置く"V - ADJ[a-INF] - NP<sub>NOM</sub>"は、名詞句がある程度の長さや複雑さがあれば可能となる。Poi venne a prendere il libro uno degli amici di Giovanni. 「その後、本を取りにジョヴァンニの友人の一人がやってきた」 (Salvi 1991a,53)

ADJ[PP[P-NP/INF]] : *volerci* 「～が必要である」

結合価として、*esserci* は非対格名詞句に加えて場所に関する前置詞句・副詞句、*volerci* は随意的に手段・目的などの前置詞句を必要とする。これらの動詞の内項にある非対格名詞は、動詞に前置することは許されない (\**Due ragazzi ci sono in cima*. 「二人の少年が頂上にいる」 (Salvi 1991a,111))。

文要素配列① : V - NP<sub>NOM</sub> - ADJ

*C'è una sedia nella casa*. 「家に椅子が一脚ある」 / *Ci vuole molto tempo per finire questo lavoro*. 「この仕事を終えるのに多くの時間がかかる」

文要素配列② : ADJ - V - NP<sub>NOM</sub>

*Sul tavolo ci sono due penne*. 「テーブルに二本のペンがある」

### 3.1.1.3.2 文型 A22: [V C PP]

文型 A22a: [V<sub>3S</sub> C[(P)-INF] PP<sub>DAT</sub>]

C[INF] : *piacere* 「気に入る」 / *spiacere* 「残念である」 / *dispiacere* 「残念である」 / *bastare* 「十分である」 / *interessare* 「重要である」 / *spettare* 「～の役目だ」 / *appartenere* 「～の権利である」

C[(di)-INF] : *rincrescere* 「残念である」 / *importare* 「重要である」

C[di-INF] : *succedere* 「起こる」 / *andare* 「～に合う」

文型 A22b: [V<sub>3S</sub> C[CHE<sub>CON</sub>] PP<sub>DAT</sub>] : *piacere* 「気に入る」 / *spiacere* 「残念である」 / *dispiacere*

「残念である」 / *rincrescere* 「残念である」 / *bastare* 「十分である」 / *importare*

「重要である」 / *interessare* 「重要である」 / *succedere* 「起こる」 / *andare* 「～に

合う」

文型 A22 は、文型 A12 に与格補語が加わったもので、定動詞は三人称単数形態となる。

文要素配列① : V<sub>3S</sub> - PP<sub>DAT</sub> - C[(P)-INF]/[CHE]

*Dispiace a noi prima di tutto non aver disputato la partita*. 「何よりもまず試合をしなかったのが私たちは残念だ」 / *Non spetta a lui decidere*. 「決めるのは彼の役目ではない」 / *Dispiace a noi che siamo etruschi*. 「私たちがエトルスク人であるのが残念だ」

文要素配列② : PP<sub>DAT</sub> - V<sub>3S</sub> - C[(P)-INF]/[CHE]

*A voi piace fare shopping su Internet*. 「君たちはネットショッピングが好きだ」 / *Mi*

*importa* (di) riuscirci. 「私にはそれが成功するかどうかが重要である」 / *Ci dispiace* che tu non possa venire. 「君が来ることができないのは私たちは残念である」 / *Mi basta* che tu venga. 「私は君が来てくれれば十分だ」

文型 A12 に見られた不定形補文と定形補文との交替が文型 A22 でも見られる。

文型 A22a: [V<sub>3s</sub> C[INF] PP<sub>DAT</sub>] ⇔ 文型 A22b: [V<sub>3s</sub> C[CHE<sub>CON</sub>] PP<sub>DAT</sub>]

Non mi *piace* fare così. ⇔ Non mi *piace* che faccia così. 「私はこんなことをするのが嫌いだ」

文型 A22a: [V<sub>3s</sub> C[di-INF] PP<sub>DAT</sub>] ⇔ 文型 A22b: [V<sub>3s</sub> C[CHE<sub>CON</sub>] PP<sub>DAT</sub>]

Mi *succede* spesso di incontrarlo a teatro. ⇔ Mi *succede* spesso che lo incontri a teatro.  
「私は彼に劇場で会うことがよくある」

### 3.1.1.3.3 文型 A23: [V PP PP]

文型 A23a: [V<sub>3s</sub> PP[di-NP] PP<sub>DAT</sub>] : *dispiacere* 「残念だ」 / *importare* 「必要である」

右方結合価にある二つの前置詞句は、PP[di-NP]と与格補語の前置詞句である。統語上の主語である非対格名詞句を持たないため、定動詞は三人称単数形態となる。意味構造としては、与格補語が主題となり V<sub>3s</sub> - PP[di-NP]が叙述の役割を行う。

文要素配列① : PP<sub>DAT</sub> - V<sub>3s</sub> - PP[di-NP]

A Maria non *importa* di Pietro. 「マリアにはピエトロが必要ない」 / Mi *dispiace* di tutte queste disgrazie. 「私にはすべてのこの不運が残念である」

## 3.1.2 両肢文 (文型 B)

左右に結合価を持つ両肢文は、左方結合価の NP が主語となり、右方結合価がそれに対する叙述を行う<sup>\*1</sup>。

### 3.1.2.1 1項結合価 (文型 B1)

両肢 1項結合価述語文に出現する動詞は、「活動動詞」を意味する非能格自動詞である ((11b))。

\*1 Salvi (1991a) では、非項結合価述語文として、*ecco* を用いた定動詞を持たない提示文を取り上げている。*Ecco* Maria. 「マリアがいる」 / *Eccola*. 「彼女がいる」

### 3.1.2.1.1 文型 B11: [NP V]

文型 B11a: [NP<sub>NOM</sub> V] : *dormire*「眠る」/ *pranzare*「昼食をとる」/ *telefonare*「電話する」/ *tossire*「咳をする」/ *costare*「高価である」

主語が動詞に前置する語順が統語的無標 (①) になるのに対して、動詞に後置される主語は新情報を示す文要素配列となる (②)。

文要素配列① : NP<sub>NOM</sub> - V

*Il bambino ha dormito bene.*「子供はよく寝ていた」/ *Noi abbiamo pranzato al ristorante.*

「私たちはレストランで昼食を食べた」

文要素配列② : V - NP<sub>NOM</sub>

*Ho telefonato Marco.*「マルコが電話した」/ *Ha tossito quella vecchia.*「あの老人が咳をした」

### 3.1.2.2 2項結合価 (文型 B2)

#### 3.1.2.2.1 文型 B21: [NP V NP]

左方と右方の両方の結合価に NP を持つ動詞は、他動詞である ((11c))。また、再帰代名詞が直接目的語の役割をする本質的再帰動詞や相互再帰動詞もこの文型の動詞となる。

文型 B21a: [NP<sub>NOM</sub> V NP<sub>ACC</sub>] : *fare*「～をする」/ *avere*「持つ」/ *leggere*「読む」/ *scrivere*「書く」/ *raccogliere*<sup>\*1</sup>「集める」/ *collezionare*「集める」/ *licenziare*「解雇する」/ *immaginarsi*「思い描く」/ *portare avanti*「前進させる」/ *tenere lontano*<sup>\*2</sup>「遠ざける」

主語の後置は、目的語が代名詞化された場合 (②) と、主語が[-definite]の素性を持ち

---

\*1 *raccogliere/ collezionare/ radunare*「集める」/ *accumulare*「蓄積する」/ *ammassare*「積み重ねる」などは、対格補語の NP に[+plural] (複数) の素性を要求する。Piero *raccoglie i dati in questo quaderno.*「ピエーロはこのノートにデータを集めている」(Salvi 1991a,74)

このような文には場所句が随意的に出現するが、この場所句を主語とした文も可能である。Questo quaderno *raccoglie i dati.*「このノートにデータを集めている」(Salvi 1991a,74)

\*2 *portare avanti/ tenere lontano*などは、[V-ADV<sub>LOC</sub>] (動詞+場所副詞句) で一つの句動詞として扱う。

新情報を示す場合に出現する (③) <sup>1</sup>。

文要素配列①: NP<sub>NOM</sub> - V - NP<sub>ACC</sub>

Mario *fa* il medico. 「マリオは医者になる」 / Il presidente *licenzia* un impiegato. 「社長は社員を解雇する」 / Franco *tiene lontano* i cani. 「フランコは犬を遠ざける」

文要素配列②: CL (NP<sub>ACC</sub>) - V - NP<sub>NOM</sub>

L'*ha mangiata* la mamma. 「それをお母さんが食べた」 (Benicà et al. 1991,125)

文要素配列③: V - NP<sub>ACC</sub> - NP<sub>NOM</sub>

*Ha mangiato* la torta un gatto. 「タルトを猫が食べた」 (Benicà et al. 1991,125)

### 3.1.2.2.2 文型 B22: [NP V C]

左方結合価に主語、右方結合価に対格としての補文を持つ動詞は、他動詞である<sup>2</sup>。

文型 B22a: [NP<sub>NOM</sub> V C [(P)-INF]]

C[INF]: *amare*「～したい」 / *desiderare*「～したい」 / *intendere*「～するつもりである」 / *usare*「習慣がある」

C[a-INF]: *imparare*「習う」 / *provare*「試みる」 / *cominciare*「始める」 / *iniziare*「始める」 / *incominciare*「始める」 / *riprendere*「再び～し始める」 / *continuare*「続ける」

C[da-INF]: *avere*「～しなければならない」

C[di-INF]: *desiderare*「～したい」 / *tentare*「試みる」 / *vedere*「努める」 / *rifiutare*「拒否する」 / *finire*「終える」 / *smettere*「止める」 / *cessare*「止める」 / *lasciare*「止める」

C[da-Art-INF]: *aborrire*「忌避する」

文型 B22b: [NP<sub>NOM</sub> V C [CHE]]

---

\*1 対格補語が左方移動する"NP<sub>NOM</sub>-NP<sub>ACC</sub>-V"の場合は、否定や強意の副詞などが伴い、繰り返しの対格補語代名詞が付加される。Piero molti libri non li *ha ancora letti*. 「ピエーロは多くの本をまだ読んでいなかった」 (Benicà et al. 1991,120)

\*2 補文として、前文を受ける代名詞的小辞 *lo* が出現する場合は、[NP<sub>NOM</sub> V C [*lo*]]という文型になり、

"NP<sub>NOM</sub> - CL (*lo*) - V"という文要素配列となる。Fabio *lo ha constatato*. 「ファビオはそのことを認めた」

C[<sub>CHE</sub><sub>IND</sub>] : *dire* 「言う」 / *affermare* 「断言する」 / *capire* 「分かる」 / *intendere* 「理解する」 / *confermare* 「確認する」 / *dimostrare* 「示す」 / *ammettere* 「認める」 / *constatare* 「認める」 / *scommettere* 「違いないと思う」 / *consentire* 「同意する」 / *dimenticare* 「忘れる」 / *sentire* 「感じる」 / *sognare* 「夢を見る」 / *minacciare* 「脅かす」

C[<sub>CHE</sub><sub>IND,CON</sub>] : *pensare* 「思う」 / *ritenere* 「思う」 / *ricordare* 「思い出させる」 / *decidere* 「決心する」 / *sperare* 「望む」 / *dubitare* 「疑う」 / *prevedere* 「予想する」

C[<sub>CHE</sub><sub>CON</sub>] : *desiderare* 「～したい」 / *chiedere* 「求める」 / *volere* 「求める」 / *credere* 「思う」 / *supporre* 「思う」 / *immaginare* 「考えつく」 / *accettare* 「受け入れる」 / *permettere* 「許す」 / *proporre* 「勧める」 / *consentire* 「認める」 / *escludere* 「否定する」 / *aspettare* 「待つ」 / *attendere* 「待つ」 / *fare* 「努める」 / *sopportare* 「耐える」 / *evitare* 「避ける」 / *imporre* 「負わせる」 / *rischiare* 「恐れがある」 / *temere* 「心配する」

文要素配列① : NP<sub>NOM</sub> - V - C[(P)-INF]/[<sub>CHE</sub>]

*Sto imparando a leggere.* 「私は読みを習っている」 / *Franca ha smesso di parlare.* 「フランカは話すのを止めた」 / *Claudio ha constatato che tutto era in ordine.* 「クラウディオはすべてが整理されていたことを認めた」 / *Prevedo che lui possa sopravvivere.* 「彼が生き延びることができると私は思う」 / *Voglio che tu mi telefonassi alle 5.* 「5時に私に電話してもらいたい」

不定形補文が[*di*-INF]となるものは、定形補文との交替形を持つ場合がある。

文型 B22a: [NP<sub>NOM</sub> V C[*di*-INF]] ⇔ 文型 B22b: [NP<sub>NOM</sub> V C[<sub>CHE</sub>]]

*Ho deciso di smettere di fumare.* ⇔ *Ho deciso che smetto di fumare.* 「私はタバコを止める決心をした」 / *Immagino di dovere costare molto.* ⇔ *Immagino che debba costare molto.* 「私はもっと高価にしなければならないと思う」

文型 B22c: [NP<sub>NOM</sub> V C[NP<sub>ACC</sub>-NP/AP/PP/INF]]

C[NP<sub>(NOM)</sub>-NP]<sup>\*1</sup> : *credere* 「思う」 / *giudicare* 「判断する」 / *considerare* 「みなす」

C[NP<sub>(NOM)</sub>-AP] : *credere* 「思う」 / *giudicare* 「判断する」 / *considerare* 「みなす」 / *vedere*

\*1 補文内の NP の格については、述部との関係を便宜上記載しているだけであり、実際は定動詞から対格を与えられる。

「見る」 / *ritrovare* 「見出す」 / *riprendere* 「叱る」

C[NP<sub>(NOM)</sub>-PP] : *credere* 「思う」 / *tenere* 「保つ」

C[NP<sub>(NOM)</sub>-INF<sub>ViUnerg/Vi</sub>]/[INF<sub>ViUnerg</sub>-NP<sub>(UNACC)</sub>] : *vedere* 「見る」 / *guardare* 「見る」 / *sentire* 「聞く」 / *udire* 「聞く」 / *ascoltare* 「聴く」

C[NP<sub>(NOM)</sub>-INF<sub>ViUnerg</sub>]/[INF<sub>ViUnerg</sub>-NP<sub>(UNACC)</sub>] : *fare* 「～させる」 / *lasciare* 「～のままにさせておく」

補文中に主語としての NP と述部として NP/ AP/ PP/ INF が現れて小節構造を構成する不定形補文がある。補文中の述部が[INF]となるものは、知覚構文・使役構文と呼ばれるものとなる。これらの構文における補文は、[INF]の動詞の種類によりその内部構造が異なる。[INF]が非能格自動詞の場合、その補文の構造は[NP<sub>(NOM)</sub>-INF<sub>ViUnerg</sub>]となり、非対格自動詞の場合は、[INF<sub>ViUnerg</sub>-NP<sub>(UNACC)</sub>]となる。補文の NP の格が両者で異なるが、格付与は定動詞が行うのでいずれも対格として出現する。

文要素配列① : NP<sub>NOM</sub> - V - C[NP<sub>ACC</sub>-NP/AP/PP/INF]<sup>\*1</sup>

L'insegnante *ha ripreso* uno scolaro disattento. 「教師は生徒を不注意であると叱った」 / Giovanni *crede* Piero innamorato. 「ジョ ヴァンニはピエーロが恋をしていると考えている」 / L'ho visto preoccupato. 「彼は心配そうな様子だった」 / Tutti lo *tenevano* per un amico sincero. 「みんな彼を誠実な友人だと思っていた」 / *Guardiamo* la neve cadere. 「私たちは雪が降るのを見ている」

文要素配列② : NP<sub>NOM</sub> - V - C[INF<sub>Vi</sub>-NP<sub>ACC</sub>]

*Guardo* giocare Mario. 「私はマリオが遊んでいるのを見る」 / *Faccio venire* mio figlio. 「私は息子を来させる」

補文の述部が[INF]であるものは、文型 B22b の接続詞 *che* で導入される定形補文との交替形を持つ。

\*1 補文内にある要素の左方転位は、NP<sub>ACC</sub> が義務的な繰り返しの代名詞と共に、述部 (NP/AP) が繰り返しの代名詞なしで可能となる。Il dottor Lepore, i colleghi lo *considerano* sincero/un despota./ Un despota/Sincero, i colleghi *considerano* invece il dottor Lepore. 「同僚たちはレポーレ先生をまじめ・独裁者と見なしている」 (Benicà et al. 1991,188)

文型 B22c: [NP<sub>NOM</sub> V C[NP<sub>ACC-INF</sub>]] ⇔ 文型 B22b: [NP<sub>NOM</sub> V C[CHE]]

*Ho sentito cantare Anna.* ⇔ *Ho sentito che canta Anna.* 「私はアンナが歌っているのを聞いた」

文型 B22d: [NP<sub>NOM</sub> V C[INF<sub>SUB-AP</sub>]] : credere 「思う」

補文における[INF]が主語となり、APが述部となるものが文型 B22dとなる。

文要素配列① : NP<sub>NOM</sub> - V - C[AP-INF]

*Non credo giusto agire così.* 「そのように行動するのが正しいとは私は思わない」

### 3.1.2.2.3 文型 B23: [NP V PP/ADJ]

右方結合価に対格の名詞句を持たない文型に出現する動詞は、非能格自動詞である((11c))。

文型 B23a: [NP<sub>NOM</sub> V PP[P-NP]]

PP[a-NP] : *parlare* 「話しかける」 / *telefonare* 「電話する」 / *mentire* 「嘘をつく」 / *pensare* 「考える」 / *consentire* 「同意する」 / *disubbidire* 「逆らう」 / *nuocere* 「害を与える」 / *attendere* 「専念する」 / *sorridere* 「微笑む」 / *condurre* 「至る」

PP[con-NP] : *parlare* 「話しをする」 / *litigare* 「口論する」 / *trattare* 「協議する」 / *patteggiare* 「折衝する」 / *consentire* 「意見が一致する」 / *coincidere* 「一致する」 / *combinare* 「一致する」 / *insistere* 「固執する」

PP[contro-NP] : *lottare* 「戦う」

PP[da-NP] : *dipendere* 「依存する」 / *diviare* 「外れる」 / *staccare* 「目立つ」 / *divorziare* 「離婚する」

PP[di-NP] : *parlare* 「話す」 / *pensare* 「判断する」 / *dubitare* 「疑う」 / *usare* 「用いる」 / *approfitare* 「利用する」 / *godere* 「享受する」 / *perdere* 「少なくなる」 / *mancare* 「欠ける」 / *tremare* 「震える」 / *sentire* 「味がする」

PP[in-NP] : *credere* 「信じる」 / *sperare* 「期待する」 / *dare* 「ぶつかる」

PP[per-NP] : *decidere* 「判断する」 / *fare* 「～に適する」 / *temere* 「心配する」

PP[sotto-NP] : *cedere* 「崩れる」

PP[su-NP] : *parlare* 「話す」 / *giurare* 「誓う」 / *riflettere* 「熟考する」 / *decidere* 「判断する」 / *dubitare* 「疑う」 / *insistere* 「固執する」 / *contare* 「当てにする」 / *staccare*



「目立つ」/ *dare* 「面している」

PP[*tra*-NP] : *decidere* 「判断する」

主語が前置される語順が無標 (①) に対して、主語名詞句が[-*definite*]の素性を持つ場合に動詞に後置されることがある (②)<sup>1</sup>。

文要素配列① : NP<sub>NOM</sub> - V - PP[P-NP]

*L'imputato ha mentito al suo avvocato.* 「被告は弁護士に嘘をついた」 / *Noi non patteggeremo col nemico.* 「我々は敵と折衝しない」 / *Luigi manca di buon senso.* 「ルイージは良識に欠ける」 / *Crediamo in Dio.* 「我々は神の存在を信じている」 / *Il terrapieno ha ceduto sotto il peso.* 「1 階が重みで崩れた」 / *Giovanni conta sul tuo voto.* 「ジョヴァンニは君の票を当てにしている」

文要素配列② : V - NP<sub>NOM</sub> - PP[P-NP]

*Ha telefonato una ragazza a tuo fratello.* 「兄に少女が電話した」 (Benicà et al. 1991,124)

文型 B23b: [NP<sub>NOM</sub> V PP[P-INF]]

PP[*a*-INF] : *fare bene*<sup>2</sup> 「～すると良い」

PP[*a*-INF] ⇔ C[*in*-Art-INF] : *insistere* 「執拗に～続ける」 / *godere* 「楽しむ」

PP[*di*-INF] : *parlare* 「～しようと話す」 / *mancare* 「忘れる」 / *cercare* 「努める」

PP[*per*-INF] : *insistere* 「どうしても～したいと求める」 / *fare* 「～しようとする」 / *finire*<sup>3</sup> 「結局～になる」

文要素配列③ : NP<sub>NOM</sub> - V - PP[P-INF]

*Hai fatto bene ad accompagnarlo.* 「君は彼と行って良かった」 / *Godo a ammirare (nell'ammirare) un paesaggio.* 「私は景色を眺めて楽しむ」 / *Ha insistito per avere una risposta.* 「彼は執拗に返事を求め続けた」 / *Ho fatto per uscire di casa.* 「私は家を出ようとしていた」 / *Ho finito per accettarlo.* 「私は結局それを引き受けることになった」

\*1 前置詞句の左方転位は、随意的な繰り返し接語を伴って可能である。Dei suoi lavori, non (ne) parla volentieri. 「彼の仕事については、私は進んで話をしない」 (Benicà et al. 1991,176)

\*2 *fare bene* などは、[V-ADV<sub>MANNER</sub>] (動詞+様態副詞句) で一つの句動詞として扱う。

\*3 主格になる NP が [+animate] の場合。

文型 B23c: [NP<sub>NOM</sub> V ADJ[PP<sub>LOC</sub>]] : *abitare* (a/in/sotto) 「住む」 / *nuotare* (in/verso) 「漂う」

文要素配列① : NP<sub>NOM</sub> - V - ADJ[PP<sub>LOC</sub>]

*Abito al decimo piano di un palazzo.* 「私はビルの 1 1 階に住んでいる」 / *Il naufrago nuotò verso l'isola.* 「遭難者は島の周りを漂った」

文要素配列② : ADJ[PP<sub>LOC</sub>] - V - NP<sub>NOM</sub>

*Sotto casa mia abita una ragazza italiana.* 「私の家の下にイタリア人の少女が住んでいる」

### 3.1.2.3 3項結合価 (文型 B3)

#### 3.1.2.3.1 文型 B31: [NP V NP C]

この文型における右方結合価の NP は対格であるが、意味関係としては与格の働きをする。

文型 B31a: [NP<sub>NOM</sub> V NP<sub>ACC</sub> C[P-INF]]

C[a-INF] : *costringere* 「強制する」 / *spingere* 「駆り立てる」 / *decidere* 「仕向ける」 / *invitare* 「誘う」 / *aiutare* 「助ける」 / *convincere* 「納得させる」 / *persuadere* 「納得させる」 / *abituare* 「習慣づける」 / *prepararsi* 「準備をする」

C[di-INF] : *incaricare* 「依頼する」 / *caricare* 「任務を課す」

C[da-Art-INF] : *sconsigliare* 「～するのを思い止まらせる」

文型 B31b: [NP<sub>NOM</sub> V NP<sub>ACC</sub> C[CHE]]

C[CHE<sub>IND</sub>] : *convincere* 「納得させる」 / *persuadere* 「納得させる」 / *avvisare* 「警告する」

C[CHE<sub>CON</sub>] : *pregare* 「頼む」

文要素配列① : NP<sub>NOM</sub> - V - NP<sub>ACC</sub> - C[P-INF]/[CHE]

*I rapitori hanno costretto la bambina a rispondere al telefono.* 「誘拐犯らは女の子に無理矢理電話に出させた」 / *L'ho sconsigliato dal partire.* 「私は彼に出発するのを思い止まらせた」 / *Pregano il medico che rimanga con loro.* 「彼らは医者と一緒にいるように頼む」

不定形補文の述部[a-INF]と[di-INF]は、定形補文との交替形を持つことがある。

文型 B31a: [NP<sub>NOM</sub> V NP<sub>ACC</sub> C[a-INF]] ⇔ 文型 B31b: [NP<sub>NOM</sub> V NP<sub>ACC</sub> C[CHE]]

*Ho convinto Marco ad andare in macchina.* ⇔ *Ho convinto Marco che andava in macchina.*

「私はマルコに車で行くように説得した」

文型 B31a: [NP<sub>NOM</sub> V NP<sub>ACC</sub> C[di-INF]] ⇔ 文型 B31b: [NP<sub>NOM</sub> V NP<sub>ACC</sub> C[CHE]]

L'ho avvisato di stare in guardia. ⇔ L'ho avvisato che stava in guardia. 「私は彼に警戒するよう警告した」

### 3.1.2.3.2 文型 B32: [NP V NP PP]

右方結合価に対格の名詞句と前置詞句を持つものは、他動詞である。

文型 B32a: [NP<sub>NOM</sub> V NP<sub>ACC</sub> PP<sub>DAT</sub>] : *dire* 「言う」 / *chiedere* 「尋ねる」 / *ricordare* 「思い出させる」 / *dare* 「与える」 / *fornire* 「与える」 / *prestare* 「与える」 / *regalare* 「贈る」 / *affittare* 「貸す」 / *cedere* 「売る」 / *consigliare* 「勧める」 / *mandare* 「送る」 / *pagare* 「代金を払う」 / *iniziare* 「導く」 / *imporre* 「負わせる」 / *evitare* 「免れさせる」 / *assicurarsi* 「確認する」 / *ricordarsi* 「思い出す」 / *mettersi* 「着る」

動詞の後の「対格補語＋与格補語」という無標の語順 ①) に対して、「与格補語＋対格補語」という語順 ②) の場合は、[-definite]の対格補語が好まれ、与格補語と対格補語の間に休止 (pause) を置いて読まれる<sup>\*</sup>。

文要素配列①: NP<sub>NOM</sub> - V - NP<sub>ACC</sub> - PP<sub>DAT</sub>

Il papà *ha regalato* una bicicletta a Maria. 「お父さんはマリアに自転車をプレゼントした」 / *Prestiamo* attenzione a Luca. 「私たちはルカに注意を払う」 / *Non ci ricordiamo* il suo indirizzo. 「私たちは彼の住所を覚えていない」

文要素配列②: NP<sub>NOM</sub> - V - PP<sub>DAT</sub> - NP<sub>ACC</sub>

Marco *manderà* al sua madre una lettera. 「マルコは母に手紙を送るつもりだ」 / *Ho dato* a Fabio le foto. 「私がファビオに写真をあげた」

文型 B32b: [NP<sub>NOM</sub> V NP<sub>ACC</sub> PP[P-NP]]

PP[a-NP] : *spingere* 「駆り立てる」 / *sostituire* 「代わりに使う」 / *mescolare* 「混ぜる」 / *abituare* 「習慣づける」 / *dare* 「捧げる」 / *riferire* 「関係づける」 / *avvicinare* 「近づける」 / *tenersi* 「従う」 / *iscriversi* 「登録する」

\*1 与格補語の左方転位は、随意的な繰り返し接語を伴って可能となる。A Giorgio, (gli) *darò* un libro.

「ジョルジョに私は本をあげよう」 (Benicà et al. 1991, 176)

PP[con-NP] : *cominciare* 「始める」 / *iniziare* 「始める」 / *pagare* 「報いる」 / *combinare* 「合わせる」 / *confondere* 「取り違える」 / *mescolare* 「混ぜる」 / *sostituire* 「取り替える」 / *minacciare* 「脅す」 / *arricchire* 「豊かにする」 / *intendersela* 「気脈を通じる」 / *confessarsi* 「打ち明ける」 / *aiutarsi* 「助けを借りる」 / *mettersi* 「交際する」

PP[contro-NP] : *assicurare* 「保険をかける」

PP[da-NP] : *separarsi* 「別れる」

PP[di-NP] : *avvisare* 「知らせる」 / *persuadere* 「納得させる」 / *incaricare* 「任せる」 / *fornire* 「供給する」 / *rifornire* 「供給する」 / *caricare* 「積む・一杯にする・強要する」 / *pagare* 「報いる」 / *impregnare* 「濡れる」 / *foderare* 「覆う」 / *minacciare* 「脅す」 / *arricchire* 「豊かにする・飾る」 / *convincersi* 「納得する」

PP[in-NP] : *riconoscersi* 「同じであると感じる」 / *confessarsi* 「告解する」 / *mettersi* 「着る」

PP[per-NP] : *dare* 「捧げる」 / *prepararsi* 「備える」

PP[su-NP] : *accordarsi* 「同意する」 / *imporsi* 「勝利する」

文要素配列① : NP<sub>NOM</sub> - V - NP<sub>ACC</sub> - PP[P-NP]

*Abituano* gli studenti allo studio. 「彼らは学生に勉強の習慣づけをする」 / *Abbiamo iniziato* il pranzo con l'antipasto. 「私たちは前菜から昼食を始めた」 / *Mi preparo* per l'esame. 「私は試験の準備をする」 / *Mi sono separato* molto presto dalla mia famiglia. 「私は非常に早くから家族と別れた」 / *Do* la vita per te. 「私は君に身を捧げる」 / *Si siamo accordati* sul prezzo. 「私たちは値段で合意した」 / *Assicuro* un bene contro i furti. 「私は盗難に備えて財産に保険をかける」

文要素配列② : NP<sub>NOM</sub> - V - PP[P-NP] - NP<sub>ACC</sub>

*Piero ha rifornito* di carta assorbente la nostra ditta. 「ピエーロは私たちの会社に吸い取り紙を供給していた」

文型 B32c: [NP<sub>NOM</sub> V NP<sub>ACC</sub> ADJ[PP<sub>LOC</sub>]] : *mettere* (a/in/su) 「置く」 / *porre* (a/in/su) 「置く」 / *caricare* (in/su) 「積む」 / *condurre* (a) 「導く」 / *prelevare* (da) 「引き出す」 / *staccare* (da) 「引き離す」 / *allontanare* (da) 「遠ざける」 / *liberare* (da) 「解放する」 / *iscrivere*

(in/ su) 「記載する」 / *afferrare* (per) 「つかむ」 / *baciare*<sup>21</sup> (in) 「キスする」

動詞の後の「対格補語＋前置詞句」という無標の語順 (①) に対して、「前置詞句＋対格補語」という語順 (②) は、対格補語に[-definite]の NP が好まれ、前置詞句の後に休止がある。

文要素配列①: NP<sub>NOM</sub> - V - NP<sub>ACC</sub> - ADJ[PP<sub>LOC</sub>]

Gli operai *caricano* le casse sul vagone. 「労働者は車両に箱を積んでいる」 / I rapitori *hanno prelevato* il prefetto dal suo domicilio. 「誘拐犯は住居から知事を捕らえた」 / Maria *ha condotto* sua sorella da casa mia alla stazione. 「マリアは自分の家から妹を駅へ案内した」

文要素配列②: NP<sub>NOM</sub> - V - ADJ[PP<sub>LOC</sub>] - NP<sub>ACC</sub>

La segretaria *ha messo* sul tuo tavolo dei fiori. 「秘書は机の上に花を置いた」

文型 B32d: [NP<sub>NOM</sub> V NP<sub>ACC</sub> ADJ[con-Art-INF]] : *cominciare* 「始める」 / *iniziare* 「始める」

文要素配列①: NP<sub>NOM</sub> - V - NP<sub>ACC</sub> - C[P-INF]/[CHE]

*Ho cominciato* il discorso con lo scherzare. 「彼はまず冗談を言ってから話しを始めた」

### 3.1.2.3.3 文型 B33: [NP V C PP]

文型 B33a: [NP<sub>NOM</sub> V C[P-INF] PP<sub>DAT</sub>]

C[a-INF] : *insegnare* 「仕方を教える」

C[di-INF] : *dire* 「言いつける」 / *ordinare* 「命じる」 / *sconsigliare* 「～しないように助言する」 / *chiedere* 「頼む」 / *imporre* 「強制する」 / *consigliare* 「勧める」 / *proporre* 「勧める」 / *permettere* 「許す」 / *consentire* 「許す」

文型 B33b: [NP<sub>NOM</sub> V C[CHE] PP<sub>DAT</sub>]

C[CHE<sub>IND</sub>] : *annunciare* 「知らせる」 / *confessare* 「告白する」 / *promettere* 「約束する」 / *dimostrare* 「～であることを示す」

---

\*1 *afferrare*/ *baciare* などは、[NP<sub>ACC</sub> - ADJ[PP<sub>LOC</sub>]] (対格補語＋場所前置詞句) と [NP<sub>ACC</sub> - ADJ[PP<sub>POS</sub>]]

(対格補語 (場所) ＋所有の与格補語) との交替がある。Giovanni *afferrò* Piero per la mano. ⇔ Giovanni

*afferrò* la mano a/di Piero. 「ジョヴァンニはピーエロの手をつかんだ」 (Salvi 1991a,74)

文要素配列①: NP<sub>NOM</sub> - V - PP<sub>DAT</sub> - C[P-INF]/[CHE]\*1

Mi *ha insegnato* a guidare. 「彼は私に運転の仕方を教えた」 / *Ha imposto* a Carlo di uscire. 「彼はカルロを無理に出て行かせた」 / *Chiedo* a Francesco di aspettare. 「私はフランチェスコに待つように頼む」 / *Ho confessato* a un ragazzo che mi piace. 「私はある女の子に好きだと告白した」

不定形補文[di-INF]は、定形補文との交替形を持つことがある。

文型 B33a: [NP<sub>NOM</sub> V C[di-INF] PP<sub>DAT</sub>] ⇔ 文型 B33b: [NP<sub>NOM</sub> V C[CHE] PP<sub>DAT</sub>]

Ti *confesso* d'essermene dimenticato. ⇔ Ti *confesso* che me ne sono dimenticato. 「私はそれについて忘れていたと君に告白する」 / Ti *dimosterrò* di avere ragione. ⇔ Ti *dimosterrò* che ho ragione io. 「私が正しいと君に示そう」

文型 B33c: [NP<sub>NOM</sub> V C[INF-NP<sub>ACC</sub>] [PP<sub>DAT</sub>]]

C[INF-VI-NP<sub>(UNACC)</sub>] : *fare* 「～させる」 / *lasciare* 「～のままにさせておく」

使役構文において[INF]が他動詞の場合は、補文と与格補語で一種の受動構造を形成する。例えば、"*Carlo ha faccio riparare la macchina dal meccanico*" 「カルロは整備士に車を修理してもらった」における補文以下は、[il meccanico ripara la macchina] 「整備士が車を修理する」という意味であるが、その構造は、[è riparata la macchina dal meccanico] 「車は整備士によって修理される」という受動態の形式となっている。

文要素配列①: NP<sub>NOM</sub> - V - C[INF-VI-NP<sub>ACC</sub>] - PP<sub>DAT</sub>

*Facciamo dire la verità a Mario.* 「マリオに真実を言わせよう」 ([dire la verità a Mario]

← [è detta la verità a Mario] ← [Mario dice la verità])

使役構文は、定形節との交替形を持つ。

文型 B33c: [NP<sub>NOM</sub> V C[INF-NP<sub>ACC</sub>] [PP<sub>DAT</sub>]] ⇔ 文型 B22b: [NP<sub>NOM</sub> V C[CHE<sub>CON</sub>]]

Il padre *fa leggere* il giornale a Mario. ⇔ Il padre *fa* che Mario *legga* il giornale. 「父はマリオに新聞を読ませる」

\*1 補文として、前文を受ける代名詞的小辞 *lo* が出現する場合は、[NP<sub>NOM</sub> V C[*lo*] PP<sub>DAT</sub>] という文型になり、"NP<sub>NOM</sub> - CL(*lo*) - V - PP<sub>DAT</sub>" という文要素配列となる。Mario *lo ha promesso* a tutti. 「マリオはみんなにそのことを約束した」

文型 B33d: [NP<sub>NOM</sub> V C[CHE<sub>IND</sub>] PP[con-NP]] : *consentire* 「同意する」 / *scommettere* 「請け合う」

文要素配列①: NP<sub>NOM</sub> - V - PP[con-NP] - C[CHE]

*Consento con te che il problema è serio.* 「その問題が深刻であるということで私は君に同意する」 / *Piero ha scommesso con Maria che riuscirà a ottenere un aumento prima dello scatto annuale.* 「ピエロは年次昇級の前に増加をうまく獲得できることをマリオに請け合った」

### 3.1.2.3.4 文型 B34: [NP V PP PP]

右方結合価に2つの前置詞句を持つ動詞は、非能格自動詞である。

文型 B34a: [NP<sub>NOM</sub> V PP[di-NP] PP<sub>DAT</sub>] : *parlare* 「話しをする」 / *dare* 「呼ぶ」

文要素配列①: NP<sub>NOM</sub> - V - PP<sub>DAT</sub> - PP[di-NP]

*Mio padre ha già parlato a Maria dei suoi progetti.* 「私の父は計画をマリアにすでに話していた」 / *Ho parlato a Susanna della tua valigia.* 「私がスザンナに君の鞆について話した」

文型 B34b: [NP<sub>NOM</sub> V PP[con-NP] PP[a/in/su-NP]]

PP[con-NP]-PP[a-NP] : *collaborare* 「協力する」

PP[con-NP]-PP[in/su-NP] : *consentire* 「意見が一致する」

文要素配列①: NP<sub>NOM</sub> - V - PP[con-NP] - PP[a/in/su-NP]

*Il direttore collabora con i suoi dipendenti a un nuovo progetto.* 「部長は新しい計画で従業員と協力する」 / *Consente con noi su questo punto.* 「彼はこの点では私たちと意見が一致している」

文型 B34c: [NP<sub>NOM</sub> V PP[di-NP] PP[per-INF]] : *approfittare* 「利用する」

文要素配列①: NP<sub>NOM</sub> - V - PP[di-NP] - PP[per-INF]

*Approfitterò delle mie ferie per visitare l'Italia.* 「私は休暇を利用してイタリアを訪れるつもりだ」

## 3.2 繫辞文

繫辞文は、主語と主語の属性・状態を表す述部を連結させる文である。繫辞文で用いら

れる動詞は非対格自動詞であり、その語彙概念構造は「状態動詞」・「到達動詞」のものとなるが ((11d))、動詞の述部である [ ]<sub>i</sub> が変項であるという点において単肢述語文とは異なる。補文の主語である非対格名詞句と述部は、小節構造を構成する。

### 3.2.1 単肢文 (文型 C)

#### 3.2.1.1 1項結合価 (文型 C1)

単肢 1 項結合価繫辞文は、語彙概念構造の [ ]<sub>i</sub> である非対格名詞句の性と数に定動詞が一致するが、[ ]<sub>i</sub> が  $\phi$  である場合は、(13) のような語彙概念構造となるため、定動詞は三人称単数形態で出現する。

(13) [[  $\phi$  ], BE AT-[ ]<sub>i</sub>] / [BECOME [[  $\phi$  ], BE AT-[ ]<sub>i</sub>]]

##### 3.2.1.1.1 文型 C11: [V NP]

文型 C11a: [V<sub>3S</sub> NP] : *fare* 「～である」 / *farsi* 「～になる」

文要素配列① : V<sub>3S</sub> - NP

*Fa caldo.* 「暑い」 / *Fa bello.* 「天気が良い」 / *Si fa sera.* 「夜になる」

##### 3.2.1.1.2 文型 C12: [V C]

文型 C12a: [V<sub>3S</sub> C[CH<sub>ECON</sub>]] : *sembrare* 「思われる」 / *parere* 「思われる」

文要素配列① : V<sub>3S</sub> - C[CH<sub>ECON</sub>]

*Sembra che tutto sia già finito.* 「もうすべて終わったようだ」

文型 C12b: [V C[NP<sub>UNACC</sub>-NP/AP/PP/ADJ]]

C[NP<sub>(NOM)</sub>-NP] : *essere* 「～である」 / *costare* 「(値段が) ～である」 / *diventare* 「～になる」 / *divenire* 「～になる」 / *risultare* 「～になる」 / *rimanere* 「～のままでいる」 / *restare* 「～のままでいる」 / *sembrare* 「～に見える」 / *parere* 「～に見える」 / *farsi* 「～になる」

C[NP<sub>(NOM)</sub>-AP]<sup>\*1</sup> : *essere* 「～である」 / *stare* 「～である」 / *andare* 「～である」 / *diventare* 「～になる」 / *divenire* 「～になる」 / *risultare* 「～になる」 / *apparire* 「(明らか) になる」 / *cadere* 「～に陥る」 / *rimanere* 「～のままでいる」 / *restare* 「～のまま

\*1 *vivere* 「～な人生を送る」 / *nascere* 「～に生まれる」 / *morire* 「～で死ぬ」といった非対格自動詞も述部に AP を取る場合がある。Il mio amico è vissuto felice. 「私の友人は幸せな人生を送った」



でいる」 / *sembrare* 「～に見える」 / *parere* 「～に見える」 / *farsi* 「～になる」

C[NP<sub>(NOM)</sub>-PP[a-NP]] : *appartenere* 「～のものである」

C[NP<sub>(NOM)</sub>-PP[da-NP]] : *essere* 「～の出身である」

C[NP<sub>(NOM)</sub>-PP[di-NP]] : *essere* 「ふさわしい」

C[NP<sub>(NOM)</sub>-ADJ[PP<sub>LOC</sub>]] : *essere* (a/in) 「～にある」 / *rimanere* (a/in) 「とどまる」 / *restare* (a/in/su) 「とどまる」

C[NP<sub>(NOM)</sub> ADJ[PP<sub>MANNER/ADV<sub>MANNER</sub></sub>]] : *essere* 「～である」 / *costare* 「(値段が) ～である」 / *stare* 「～である」 / *andare* 「～である」 / *cadere* 「～に陥る」 / *mettersi* 「～になる」

補文は主語となる非対格名詞句と名詞句・形容詞句・前置詞句などの述部で構成される。定動詞は主語となる非対格名詞句に人称・数が一致し、この非対格名詞句が上昇して定動詞に前置されるのが無標の文要素配列となる (①) 。

文要素配列① : NP<sub>NOM</sub> - V - NP/AP/PP/ADJ

Pietro *va impettito*. 「ピエトロは威張っている」 / Giulia *è divenuta adulta*. 「ジュリアは大人になった」 / La sua *colpevolezza appare chiara*. 「彼の有罪は明らかになる」 / Questa casa *appartiene* a Giovanni. 「この家はジョヴァンニのものである」 / Questo *è da te*. 「これは君にふさわしい」 / La benzina *costa molto*. 「ガソリンは高い」 / I miei affari non *vanno bene*. 「私の仕事はうまく進んでいない」 / Il tempo *si mette al brutto*. 「天気が悪くなる」

文要素配列② : V - NP/AP/PP/ADJ - NP<sub>NOM</sub>

*Siamo diventati amici noi*. 「私たちは友達になった」 / *È rimasto chiuso il giardino pubblico*. 「公園は閉まったままだった」 / *Sono di Roma io*. 「私がローマ出身だ」 / *Si mettono bene le cose*. 「事態は良くなる」

---

\*1 意味論的に、無標の文要素配列である"NP<sub>NOM</sub> - V - NP/AP/PP/ADJ"は叙述文(predicational sentence)となるのに対して、"NP/AP/PP/ADJ - V - NP<sub>NOM</sub>"は、述部の特性を特定する特定文(specificational sentence)となる。Il vincitore *è* Marco. 「勝者はマルコだ」 / In piedi *è rimasta* qualche casa. 「建ったままなのは数件の家だった」

### 3.2.1.1.3 文型 C13: [V PP/ADJ]

文型 C13a: [V<sub>3S</sub> PP[di-NP]] : *trattarsi* 「～である」

文要素配列① : V<sub>3S</sub> - PP[di-NP]

*Si tratta di un nuovo attentato contro la democrazia.* 「民主主義に対する新しい企てがある」

文型 C13b: [V<sub>3S</sub> ADJ[ADV<sub>TIME</sub>]] : *essere* 「～である」

文要素配列① : V<sub>3S</sub> - ADJ[ADV<sub>TIME</sub>]

*È presto ancora.* 「まだ早い」 / *È tardi.* 「遅れている」

### 3.2.1.2 2項結合価 (文型 C2)

#### 3.2.1.2.1 文型 C21: [V NP C]

文型 C21a: [V NP<sub>UNACC</sub> C[(P)-INF]]

C[INF] : *sembrare* 「～に見える」 / *parere* 「～に見える」 / *potere* 「～できる」 / *sapere* 「～できる」 / *dovere* 「～しなければならない」 / *volere* 「～したい」<sup>\*</sup>

C[a-INF] : *andare* 「～しようとする」 / *arrivare* 「～できる」 / *riuscire* 「うまく～できる」 / *giungere* 「～する結果になる」 / *stare* 「続ける」

C[per-INF] : *stare* 「まさに～しようとしている」 / *finire*<sup>\*\*</sup> 「結局～になる」

文要素配列① : NP<sub>NOM</sub> - V - C[(P)-INF]

*Luisa sembra avere ragione.* 「ルイーザは正しいように思える」 / *Giorgio può partire.* 「ジョルジョは出発できる」 / *So nuotare.* 「僕は泳げる」 / *Siamo arrivati a distinguerlo.* 「私たちはそれをうまく見分けることができる」 / *Stiamo per partire.* 「私たちはまさに出発しようとしていた」

文要素配列② : V - C[(P)-INF] - NP<sub>NOM</sub>

*Sembra avere ragione lui.* 「彼は正しいように思える」

#### 3.2.1.2.2 文型 C22: [V C PP]

\*1 *potere/ dovere/ volere* などの不定詞の左方転位が可能である。Correre, non *dovrei*. 「走る必要は私はないのだが」 (Benicà et al. 1991,189)

\*2 非対格名詞句が[-animate]の場合。

文型 C22a: [V<sub>3s</sub> C[di-INF] PP<sub>DAT</sub>] : *sembrare* 「～と思われる」 / *parere* 「～と思われる」

文型 C22b: [V<sub>3s</sub> C[CHE<sub>CON</sub>] PP<sub>DAT</sub>] : *sembrare* 「～と思われる」 / *parere* 「～と思われる」

文要素配列① : V<sub>3s</sub> - PP<sub>DAT</sub> - C[di-INF]/[CHE]

*Sembra a te che ti fissino.* 「君は彼らが自分に注目するような気がしている」 / *Mi pare che qualcosa possa accadere.* 「何かが起こると私には思える」

文要素配列②<sup>1</sup> : PP<sub>DAT</sub> - V<sub>3s</sub> - C[di-INF]/[CHE]

*A me pare che siano tutti uguali.* 「私にはすべてが同じように思える」

不定形補文と定形補文には交替形が見られる。

文型 C22a: [V<sub>3s</sub> C[di-INF] PP<sub>DAT</sub>] ⇔ 文型 C22b: [V<sub>3s</sub> C[CHE<sub>CON</sub>] PP<sub>DAT</sub>]

*Mi sembra di avere la febbre.* ⇔ *Mi sembra che abbia la febbre.* 「熱があるように私には思える」

文型 C22c: [V C[NP<sub>UNACC</sub>-NP/AP] PP<sub>DAT</sub>]

C[NP<sub>(NOM)</sub>-NP] : *sembrare* 「～と思われる」 / *parere* 「～と思われる」

C[NP<sub>(NOM)</sub>-AP] : *sembrare* 「～と思われる」 / *parere* 「～と思われる」 / *apparire* 「明らかになる」

C[NP<sub>(NOM)</sub>-INF] : *sembrare* 「～と思われる」 / *parere* 「～と思われる」

文要素配列① : NP<sub>NOM</sub> - V - PP<sub>DAT</sub> - NP/AP/INF

*Quella donna sembra a me un angelo.* 「あの女性は私には天使に思える」 / *Il padre sembra a lui più desiderabile.* 「その父親は彼にとってより望ましいと思える」 / *Mario sembra a me essere felice.* 「マリオは私には幸せに思える」

文要素配列② : PP<sub>DAT</sub> - NP<sub>NOM</sub> - V - NP/AP/INF

*A me questa donna sembra sua madre.* 「私にはこの女性が彼女の母だと思える」 / *A me quella donna sembra tanto buona.* 「私にはあの女性がとてもすばらしく思える」 / *A me Luisa sembra star bene.* 「ルイザは私には元気に思える」

文型 C22d: [V<sub>3s</sub> C[INF<sub>SUB</sub>-AP] PP<sub>DAT</sub>] : *sembrare* 「～に見える」 / *parere* 「～に見える」

---

\*1 C[di-INF]の左方転位が可能である。Di sbagliare sempre, non mi pare. 「いつも間違っていると私には思える」 (Benicà et al. 1991, 189)

文要素配列①：V<sub>3S</sub> - PP<sub>DAT</sub> - C[AP-INF]

*Sembra a te giusto farle.* 「それをするのが君には正しく思える」

文要素配列①：PP<sub>DAT</sub> - V<sub>3S</sub> - C[AP-INF]

*A voi sembra giusto lavorare.* 「君たちには働くのが正しいと思える」

#### 4. 結語

動詞の結合価に関する繫辞性・左方結合価性・右方結合価性という示唆の特徴から示される単肢述語文・両肢述語文・単肢繫辞文は、非対格自動詞・非能格自動詞・他動詞といった動詞が持つ意味構造と関連することで文要素配列に反映される。本稿は、単肢述語文・両肢述語文・単肢繫辞文における文法文型として(14)のようなものを示した。

(14) a. 単肢述語文：[V]/ [V NP]/ [V C]/ [V NP PP/ADJ]/ [V C PP]/ [V PP PP]

b. 両肢述語文：[NP V]/ [NP V NP]/ [NP V C]/ [NP V PP/ADJ]/ [NP V NP C]/  
[NP V NP PP/ADJ]/ [NP V C PP]/ [NP V PP PP]

c. 単肢繫辞文：[V NP]/ [V C]/ [V PP/ADJ]/ [V NP C]/ [V C PP]

Salvi (1991a) での文型分類では、非対格自動詞と他動詞・非能格自動詞でパラレルな構造が成立していたが、本稿では繫辞性という示唆の特徴を加えたことで、少し複雑なパラレル関係を示すことになる。定動詞として非対格自動詞を持つ単肢述語文と単肢繫辞文において共通している文型は、[V NP]/ [V C]/ [V C PP]であり、[V]/ [V NP PP/ADJ]/ [V PP PP]が単肢述語文に、そして[V PP/ADJ]/ [V NP C]が単肢繫辞文に存在する。この共通している文型と、単肢述語文・単肢繫辞文が独自に持つ文型の左方結合価に NP を加えたものが両肢述語文の文法文型となっていることから、イタリア語は単肢文と両肢文でパラレルな文型を示すことになる。

このような文法文型から導かれる名詞句の文要素配列に関して、(15)のようなことを指摘することが可能である。

(15) a. 単肢述語文における主語となる非対格名詞句は、動詞に後置することが可能である。

b. 両肢述語文は、主格名詞句が[-definite]などの統語特性や新情報といった情報特性を持つ場合、動詞に後置することがある。

c. 単肢繫辞文における主語となる非対格名詞句は、動詞に後置することができない。

(15c)における単肢繫辞文の義務的な主語移動は、同じ非対格自動詞で構成される単肢述語文と異なる現象であり、これは単肢述語文と単肢繫辞文に用いられる動詞における意味構造の相違に関係していると考えられる。単肢繫辞文においては、語彙概念構造の[ ]<sub>z</sub>項が変項であり、この[ ]<sub>z</sub>項が動詞と強い内部構造を示すため、主語となる非対格名詞句をその間に置くことができない。例えば(16)に示すように、単肢繫辞文である文法文型 C12bでは、非対格名詞句が補文の主語として動詞の内項に置かれるが、語彙概念構造においては、述部である <sub>AP</sub>[arrabiata]が動詞の[ ]<sub>z</sub>項となるため、非対格名詞句は「動詞－述部」の前後に文要素配列が行われる。

(16) 文法文型：[<sub>V</sub>[sembra] <sub>SC</sub>[<sub>NP</sub>[Maria] <sub>AP</sub>[arrabiata]]] 「マリアは怒っているようだ」

語彙概念構造：[[Maria], BE AT-[arrabiata]]<sub>z</sub>

文要素配列：<sub>NP</sub>[Maria] <sub>V</sub>[sembra] <sub>AP</sub>[arrabiata] / <sub>V</sub>[sembra] <sub>AP</sub>[arrabiata] <sub>NP</sub>[Maria]

一方、単肢述語文においては、この主語移動は義務的ではない。(17)に示すように、単肢述語文の文法文型 A21cにおいては、非対格名詞句は動詞の内項に位置する。このような単肢述語文の動詞の語彙概念構造は、基本的に述部[ ]<sub>z</sub>が定項となり、この定項[ ]<sub>z</sub>を含む動詞が非対格名詞句[ ]<sub>z</sub>を内項にとる非対格構造となる。このため、文要素配列として主語となる非対格名詞句[ ]<sub>z</sub>は動詞の前後に比較的自由に出現することが可能となる。

(17) 文法文型：[<sub>V</sub>[è caduta] <sub>NP</sub>[una stella]] <sub>ADJ</sub>[dal cielo] 「星が空から落ちた」

語彙概念構造：[BECOME [[una stella], BE AT-[CADENTE]]] [dal cielo]

文要素配列：<sub>NP</sub>[una stella] <sub>V</sub>[è caduta] <sub>ADJ</sub>[dal cielo]

<sub>V</sub>[è caduta] <sub>NP</sub>[una stella] <sub>ADJ</sub>[dal cielo]

<sub>V</sub>[è caduta] <sub>ADJ</sub>[dal cielo] <sub>NP</sub>[una stella]

<sub>ADJ</sub>[dal cielo] <sub>V</sub>[è caduta] <sub>NP</sub>[una stella]

このように、動詞の意味構造に反映する繫辞性という示唆的特徴は、文要素配列を行う際に内項の名詞句における主語上昇の可否などの決定要因となっていると思われる。

同じような繫辞性の有無によって起こる統語現象が単肢繫辞文の動詞 *essere* と単肢述語文 *esserci* の間にも見られる。動詞 *essere* が文型 C12bにおいて述部の形容詞句が過去分詞となる構造は受動態であり、名詞句は義務的に移動し、移動しない文要素配列は不適格と

なる。

(18) 文法文型：[<sub>v</sub>[furo]no] <sub>sc</sub>[<sub>NP</sub>[molte case] <sub>AP</sub>[costruite]] 「多くの家が建てられた」

文要素配列：<sub>NP</sub>[molte case] <sub>v</sub>[furo]no] <sub>AP</sub>[costruite]

<sub>v</sub>[furo]no] <sub>AP</sub>[costruite] <sub>NP</sub>[molte case]

\*<sub>v</sub>[furo]no] <sub>NP</sub>[molte case] <sub>AP</sub>[costruite]

一方、*esserci* は、(19) のようにいずれの文要素配列においても過去分詞を要素とすることができない。

(19) a. \**Ci furono molte case costruite.*

b. \**Ci furono costruite molte case.*

これは、*esserci* が単肢述語文を形成する非対格自動詞であり、(20) のように[ ]<sub>z</sub>に定項を持つ非対格構造をとるためであると考えられる。

(20) 文法文型：[<sub>v</sub>[*esserci*] <sub>NP</sub>[ ]] <sub>ADJ</sub>[ ]

語彙概念構造：[[ ]<sub>y</sub> BE AT-[ESISTENZA]<sub>z</sub>] [ ]

文要素配列：<sub>v</sub>[*esserci*] - <sub>NP</sub><sub>NOM</sub> - <sub>ADJ</sub>/ <sub>ADJ</sub> - <sub>v</sub>[*esserci*] - <sub>NP</sub><sub>NOM</sub>

また、繫辞文で義務化している非対格名詞句の移動について、*esserci* が許容しないという点も *esserci* が小節構造ではなく非対格構造を持つ証拠となると考えられる。

(21) a. *Ci sono due ragazzi nell'aula.* 「教室に二人の少年がいる」

b. \**Due ragazzi ci sono nell'aula.* / \**Ci sono nell'aula due ragazzi.*

*esserci* は、(21) のように、非対格名詞句 "*due ragazzi*" を *esserci* の直後に配置する必要があり、非対格名詞句を移動する場合は不適格となる。これは *essere* における繫辞性とは反対の統語行動であり、このことから *esserci* は小節構造を持たないということが指摘できると思われる。

最後に、形容詞が連結動詞とともに句動詞を形成する *essere possibile* 「可能である」 / *essere sufficiente* 「十分である」 などについても、結合価により文法文型を確立することが可能であると思われるが、この点については今後の課題としていきたい。

参考文献：

- Benicà, Paola, Giampaolo Salvi, & Lorenza Frison (1991) "L'ordine degli elementi della frase e le costruzioni marcate," in Lorenzo Renzi (ed.) *Grande grammatica italiana di consultazione, Vol. I: La frase. I sintagmi nominale preposizionale*, 115-225, Il Mulino.
- Burzio, Luigi (1986) *Italian Syntax: A Government-Binding Approach*, D. Reidel Publishing Company.
- Daneš, František (1994) "The Sentence-Pattern Model of Syntax," in Philip A. Luelsdorff (ed.) *The Prague School of Structural and Functional Linguistics*, 197-221, John Benjamins Publishing Company.
- Graffi, Giorgio (1994) *Sintassi*, il Mulino.
- Panevová, Jarmila (1994) "Valency Frames and the Meaning of the Sentence," in Philip A. Luelsdorff (ed.) *The Prague School of Structural and Functional Linguistics*, 223-243, John Benjamins Publishing Company.
- Salvi, Giampaolo (1991a) "La frase semplice," in Lorenzo Renzi (ed.) *Grande grammatica italiana di consultazione, Vol. I: La frase. I sintagmi nominale preposizionale*, 29-113, Il Mulino.
- Salvi, Giampaolo (1991b) "Le frasi copulativi," in Lorenzo Renzi & Giampaolo Salvi (eds.) *Grande grammatica italiana di consultazione, Vol. II: I sintagmi verbale, aggettivale, avverbiale. La subordinazione*, 163-189, Il Mulino.
- Salvi, Giampaolo (1991c) "I complementi predicativi," in Lorenzo Renzi & Giampaolo Salvi (eds.) *Grande grammatica italiana di consultazione, Vol. II: I sintagmi verbale, aggettivale, avverbiale. La subordinazione*, 191-226, Il Mulino.
- 上野貴史 (2010) 「過去分詞の統語機能と派生語」, 『イタリア学会誌第 60 号』, 89-110.
- 上野貴史 (2014) 「英語とイタリア語における存在表現：小節構造と非対格構造における派生」, 『NIDABA 第 43 号』.
- 影山太郎 (1996) 『動詞意味論：言語と認知の節点』, くろしお出版.
- 影山太郎・由本陽子 (1997) 『語形成と概念構造』, 研究社出版.
- 本城二郎 (2005) 「チェコ語の文型の機能構造：結合価と FP (機能的構成) を中心として」, 『NIDABA 第 34 号』, 77-86.
- 本城二郎 (2009) 「チェコの言語学最前線：プラハ言語学派文型理論に基づく日本語文型の構築に向けて」, 『言語文化学会論集第 33 号』, 69-80.